

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

**生きて働く確かな学力の育成**  
 —学び合い、高め合う授業の構想—

**生比奈小学校**  
**「学力向上実行プラン」**

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 低学年推進員 田中 智穂	委員 教頭 高学年推進員 中学年推進員 研修主任	内藤 雅文 秋田 佳世 太田 智子 平山 千恵子
----------------------------	--------------------------------------	-----------------------------------

校長

長家 誠

【小中連携または中高連携における共通の取組】

- 図書館活用による学びを広げる読書活動
- タブレットを有効的に活用した授業の工夫

【各校における実行プランの取組状況の把握について】

管理職による授業参観や校内研修や授業研究等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に根気よく取り組める児童が多い。 ●漢字の読み書きや、既習漢字等を使って文章を書くことに課題がある児童が多い。 ●正確に計算したり、既習の内容を使って考えたりすることに課題がある児童がいる。	・基礎的・基本的な知識や技能を確実に身につけ、それを生かして活用することができる。	・朝の学習時間を確保し、漢字や計算等の定着を図る。 ・担任間で板書や発問、ノート指導、ICTの積極的な活用等の共有をはかり分かりやすい授業づくりに努める。 ・全学年の学習や、現学年の既習内容を振り返る課題を、効果的に加える。 ・自分の意見や気持ちを表現するスキルを身に付けることができる指導方法を教員間で共有する。	・基礎的な問題集の情報共有をする。	・プリント集の情報共有ができ、児童にも取り組みやすいものだった。今後も継続し、授業の発問やワークシートにも活用したい。 ・昨年に比べて、朝の学習の時間を確保でき、問題の解き方や、考え方の解説、復習の時間にあてることができた。	・全学年で、基礎的な問題から応用までの問題に取り組む機会を充実させる。 ・学年に合わせて、問題の解き方や、重要な語句の選択の仕方を教員間で情報共有する。 ・教員間で情報を共有できる時間を確保する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○教師の話をよく聞き、指示されたことや手順の分かる学習には根気よく取り組む。 ●自分の思いや考えをまとめたり表現したりすることが苦手な児童が多い。	・課題解決に向けて活動に取り組むなかで、自分の考えを根拠や理由を明らかにしながら、表現できる。	・全ての児童にわかりやすい厳選された発問を考える。 ・ICTを活用した話し合い活動を取り入れる。 ・相手意識や目的意識を明確にしてまとめたり、表現したりすることができる学習活動を目指す。		・授業研究では、事前に発問等を吟味することができた。 ・授業研究では、発展した学習において目的意識をしっかりとって児童が取り組むことができた。 ・ICTを活用した話し合い活動の方法等の情報共有の場の設定ができなかった。	・テーマを決めたり、文言を決めたりしたスピーチやグループトークに取り組む方法を共有できるようにする。 ・どのように解決したのかを問う発問を工夫する。 ・何ができるようになったのか、そのためのこつは…と明確に表現できるめあての提示を行う。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○決められた課題は、最後まで取り組める。 ●自分で課題を見つけ、計画を立て、自主的に学習に取り組もうとする意欲が乏しい。	・学習をふり返り、次時への学習意欲をもつことができる。 ・課題や自主学習に意欲的に取り組み、学ぶ楽しさや喜びを感じることができる。	・自主学習のやり方を配布し掲示する。(興味のあることを追究したり、探求する楽しさを伝える。) ・自主学習の日、読書の日を校内で設定し、自主学習や読書の習慣を学校全体に広めていく。(親子で取り組むことができるよう週末に設定)		・校内自主学習コンテストを行い、○○先生賞などを掲示した。児童や保護者にやり方を示すことができ、児童の意欲が向上した。 ・おすすめの本紹介コンテストを行い、特に低学年は、親子で取り組むことができた。	・校内コンテストの継続、回数増。 ・全学年で、公立図書館との連携。(公立図書館に選書の相談をする。)

令和4年度 学力向上ロードマップ

